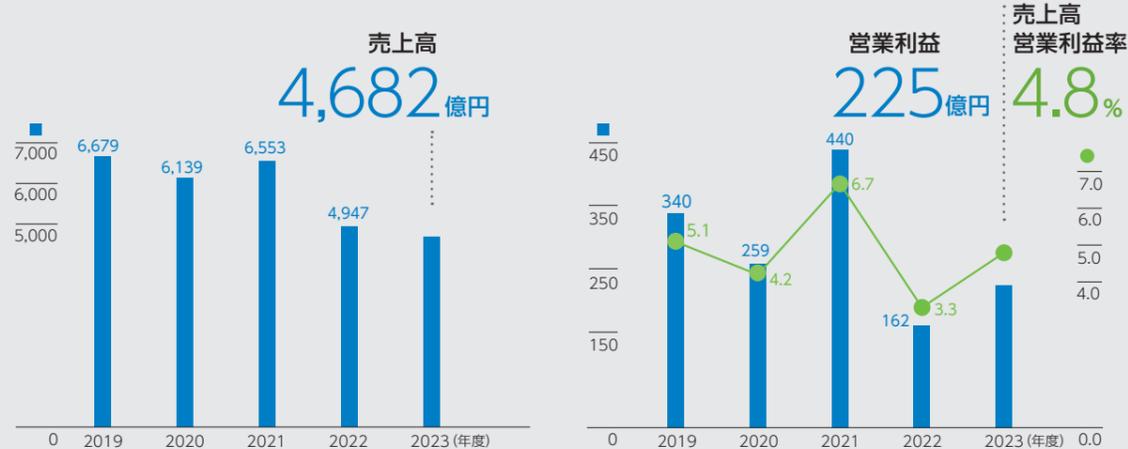


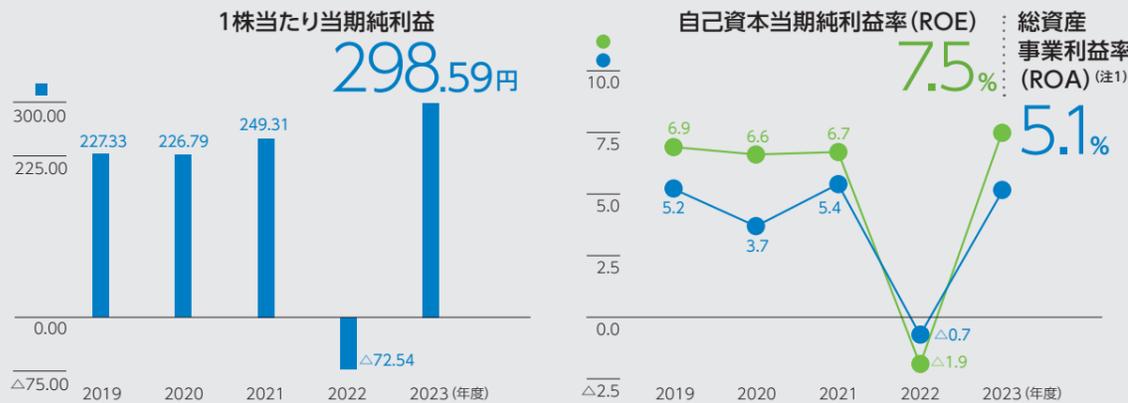
# 財務・非財務ハイライト

## 財務



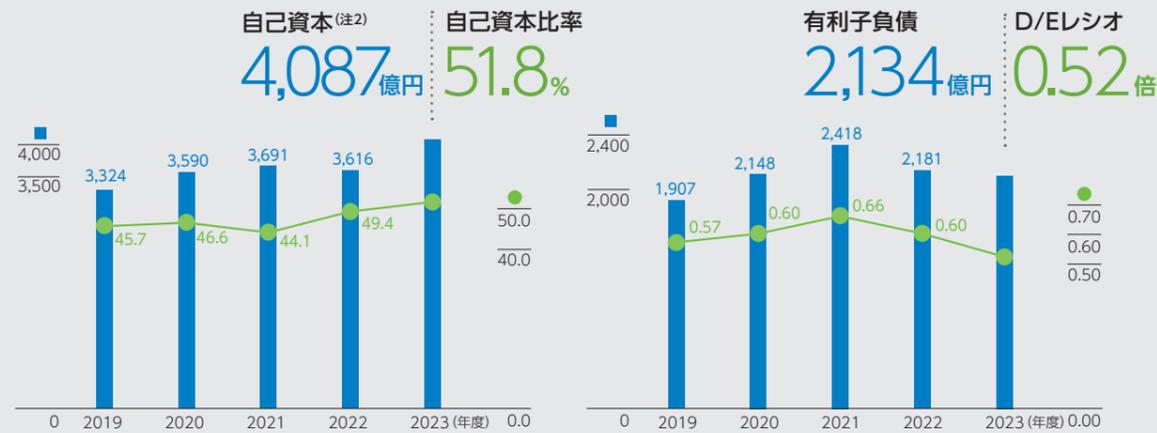
売上高は、2022年12月に医薬品受託製造会社((株)イーピーアイコーポレーション)を買収した効果があったものの、樹脂・化学品セグメントにおいて中国経済の停滞等の影響もあり、ナイロンポリマー・カプロラクタム等の販売が低調に推移した影響が大きく、前年度比5.4%の減収となりました。

営業利益は、機能品セグメントにおける分離膜の販売、機械セグメントにおけるアフターサービスが堅調に推移し、また医薬事業のロイヤリティ収入も増加したことなどから、前年度比38.5%の増益となりました。売上高営業利益率は1.5ポイント増の4.8%となりました。



1株当たり当期純利益は、営業利益の増加に加え、持分法適用関連会社であるUBE三菱セメント(株)において販売価格の是正等を進めたことにより持分法投資損益が改善した結果、前年度の△72.54円に対して、298.59円となりました。

ROEは、前年度の△1.9%に対して7.5%、またROAは、前年度の△0.7%に対して5.1%となりました。

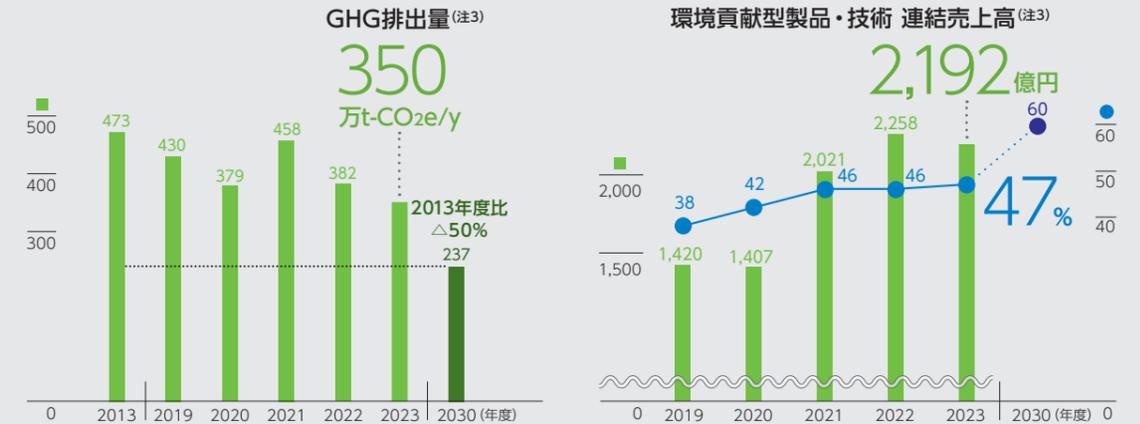


自己資本は、前年度比13.0%増加しました。自己資本比率は、2.4ポイント増の51.8%となりました。

有利子負債は、営業キャッシュ・フローの大幅な改善に伴う借入金の削減などにより、前年度比2.2%減となりました。この結果、D/Eレシオは0.52倍と財務健全性を維持しています。

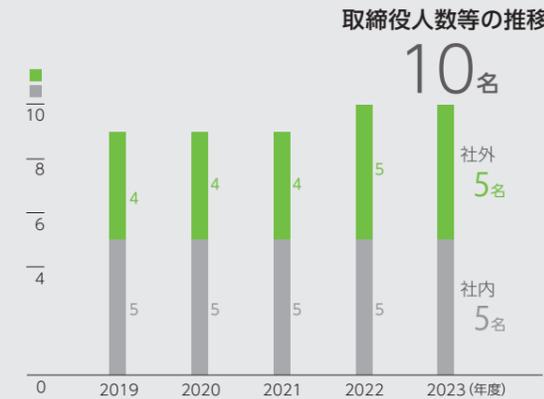
(注1) 総資産事業利益率(ROA) = (営業利益 + 受取利息・受取配当金 + 持分法による投資損益) / 総資産(期中平均)  
(注2) 自己資本 = 純資産 - 新株予約権 - 非支配株主持分

## 非財務



GHG排出量は、前年度比8%減となり、2013年度比では、26%の削減となりました。  
※なお、2023年度GHG排出量は、2024年10月の第三者検証の結果により変更されております。

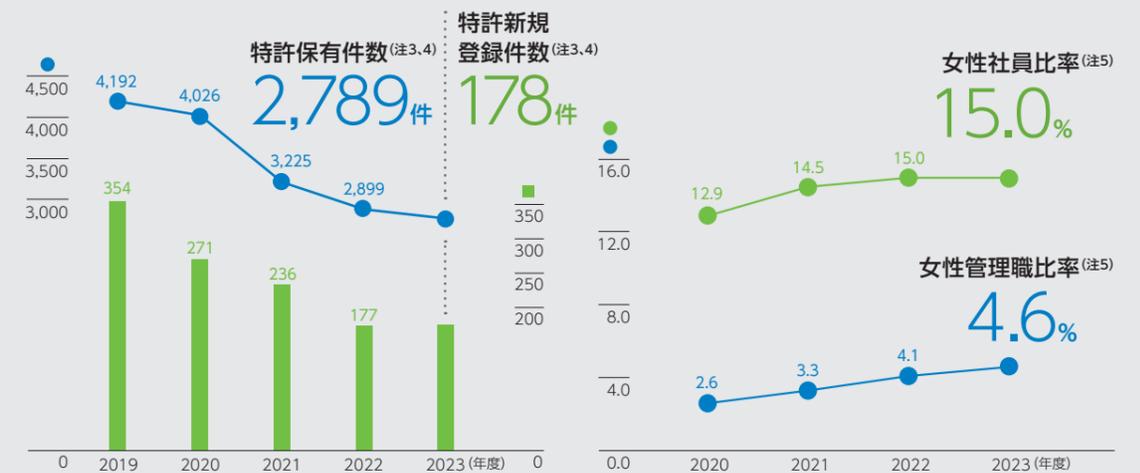
環境貢献型製品・技術の売上高は、前年度比2.9%減となりましたが、売上高に占める割合は1ポイント増の47%となりました。



取締役の人数は前年度と同じ10名となり、社外取締役の人数も前年度と同じ5名(うち1名が女性取締役)となりました。



研究開発費は、一定の水準を維持しています。



近年、化学事業において組織再編により特許権が移転したことや保有特許の棚卸を進めたことに伴い、保有特許件数および特許新規登録件数は減少傾向にありましたが、着実な権利化手続きにより2023年度は前年度と同水準になりました。なお、2023年度の特許保有件数の63%はスペシャリティ事業に関連する特許です。

ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョンの重点施策の一つとして女性の活躍を推進しており、女性管理職比率は、前年度比0.5ポイント増の4.6%となりました。

(注3) UBE三菱セメントグループに移管されたセメント関連事業を除いています。  
(注4) UBE単独および一部グループ会社が保有する特許  
(注5) 国内連結